別紙様式1

令和7年度　学校評価表　（最終）

三原市立木原小学校　校番（ 3 ）

a 学校教育目標	自らをきりひらく たくましい児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　主体的・協働的に取り組み、やりぬく児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　地域とともに歩み、児童が豊かに成長する安心と信頼のある学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	コメント
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。	(1)基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。	○R-PDCAに基づく学習指導を徹底する。 ・「課題改善・学力補充シート」に基づく指導の継続 ・個に応じた指導の充実(学力の定着・向上に係る状況シートへの記入・取組) ○ICT端末の活用を図る。 ・「ICT活用の系統表」の活用 ・児童が時間・場所・学習内容により自分で選び、活用できる機会を保障する。	・学力調査の全国・市平均（100%）に対する、全学年児童の到達度の割合（12月実施・1月分析） ・各教科（国語科・算数科・理科）学期末まとめのテストで全国平均以上を達成した児童の割合 ・児童アンケート肯定的評価の割合（ICT活用）	100% 85% 90%	— 88.9% 93.8%	116.6% 91.0% 100%	116.8% 107% 111%	A	・標準学力調査の結果については、全国平均と比較すると、国語科が112.3%、算数科が122.5%、理科が121%、三原市平均と比較すると国語科が112.5%、算数科114%、理科117.5%で、三教科とも上回ることができた。 ・学期末テストにおける目標達成の児童は、国語科93.8%、算数科87.5%、理科91.7%であり、どの教科も目標値を超えることができた。単元ごとに復習プリントを実施したり、個の課題に合わせて個別指導を行ったりした成果と考えられる。 ・ICTの活用については、どの学年も「ICT活用の系統表」に基づいて指導することができ、100%の児童が肯定的回答をしていた。日常的にICTを活用する中で、どの学年もスキルアップを図ることができた。	・児童一人一人の課題を明確にし、「学力補充シート」に沿って取組を進め、課題の克服を図る。日々の授業においては、文章の読み取りや自分の考えを書く活動を大事にしていく。算数科や理科については、引き続き単元ごとの復習プリントに取り組ませ、学力の定着を図る。 ・今後も、ICT支援員と連携しながら、学年の発達段階に応じてICT活用の幅を広げられるように環境整備を行う。	4			・個の課題に合わせた個別の指導を今後も進めてほしい。 ・ICTの活用も積極的に進めてほしい。 ・論理的思考力、表現力、主体性の個々の能力のアップを図ってほしい。 ・R80の取組によりまとめる力がついてきている。 ・R80関係の評価については、達成度がかなり高くなってきたので、来年度は目標値を少し上げるとよい。 ・作者が何に感動し表現したかを追究することで文章の解釈や理解が深まる。基本的な5W1Hを読み取ることも大切にしてほしい。
		(2)論理的思考力・表現力並びに主体性・協働性を育てる。	○教育研究を推進する。 ・授業研究の充実（生活科・総合的な学習の時間における場面（つかむ・考える・学び合う・まとめる・R80）に応じたファシリテート力の向上） ・R80による振り返りの充実（結論先行かつ、理由や根拠を付けた具体的なまとめ・振り返り） ・少人数・複式学級指導の充実（「複式学級指導の手引き」「きはら学びのステップ」の活用、学習リーダーの育成、児童参観交流会の各学期実施） ・紙とデジタルの有効活用 （デジタル教科書、思考ツール等）	・児童アンケート肯定的評価の割合（表現力）（主体性）（協働性） ・結論先行、理由や根拠をつけて具体的に学習のまとめ・振り返りを書いている児童の割合 ・児童アンケート肯定的評価の割合（R80）	90% 80% 80%	94.8% 95.9% 91.7%	96.2% 100% 95.9%	107% 125% 120%	A	・児童アンケートの肯定的評価は、表現力が95.9%、主体性が95.9%、協働性が96.9%であり、目標を達成することができた。しかし、表現力の項目の「理由や根拠を後につけ加えています。」については、肯定的回答をした児童が87.5%にとどまり、課題が残った。 ・R80については、どの学年も結論先行で理由や根拠をつけながら、学習のめあてを意識して振り返りを書くことができるようになった。 ・R80についての児童アンケートでも、肯定的回答の児童が95.9%であり、目標を達成することができた。	・引き続き、自分の考えを書いたり話したりする際に理由や根拠を付け加えることを指導していく。また、望ましい発表の仕方ができた際にしっかりと肯定的評価を行い、自信を付けていく。 ・今後も、「木原学びのステップ」を活用しながら学習リーダー中心の授業を推進するとともに、児童参観交流会を通して自分たちの学び方についての課題を見つけることができるようにしていく。 ・引き続き、書かせたいR80をめあてに対してどのように設定していくか教材研究を進めていく。	4			
豊かな心の育成	自己を高め、他者とよりよく関わり、協調しようとする豊かな心を養う。	(1)自ら行動し、やりぬく意欲や自信を育てる。	○「木原チャレンジ」を継続する。 ・目標に向かって挑戦する場の設定（マラソン、縄跳び、暗唱、読書） ○特別活動を充実させる。 ・自律的に取り組む児童会活動の推進	・児童アンケート肯定的評価の割合（自主・自律）（意欲）（自信）	各90%	自主・自律 92.2% 意欲 93.8% 自信 93.8%	自主・自律 95.9% 意欲 100% 自信 90.7%	自主・自律 107% 意欲 111% 自信 101%	A	・「木原チャレンジ」については、100%の児童が肯定的回答をしていた。 ・児童会が主体となって行う「みんな遊び」の活動を通して、上級生がリーダーシップを発揮し、自律的に活動することができた。	・引き続き、頑張っている過程を大事にし、肯定的評価を継続しながら意欲や自信につなげていく。 ・引き続き、上級生がリーダーシップを発揮して活動に取り組めるよう、事前に担当教員と打ち合わせを行っておく。	4			・遊びによって身につくこともあると思うので「みんな遊び」でいろいろな経験をさせてほしい。 ・個々の目標に合わせて指導し、過程を大切にしてほしい。 ・参加型の活動は心に残ると思う。 ・地域の行事をしっかり理解し継承してほしい。
		(2)他者と協働する態度を育て、郷土への愛情を深める。	○「ふるさと学習」を充実させる。 ・生活科、総合的な学習の時間、ふれあい活動（とんど祭り、ふれあいコンサート）、学校文化（木原太鼓踊り）等の充実	・児童アンケート肯定的評価の割合（協働性）（郷土愛）	各90%	協働性 100% 郷土愛 100%	協働性 96.9% 郷土愛 93.8%	協働性 108% 郷土愛 104%	A	・児童全員が地域との交流について肯定的評価をしている。具体的な内容として「冬野菜の栽培」や「町探検」、「木原太鼓踊り」、「キックベースボール」、「とんど祭り」を思い出深いと回答した。	・教師が積極的に「地域の行事」「地域の素敵なところ」などに目を向けさせるような声かけを行い、地域の良さに気付かせていく。 ・コミュニティ・スクールとしての取組を推進し、地域と協働した活動をさらに充実させることにより、地域の方や郷土への愛情を深める。	4			
健やかな体の育成	健康でたくましい心身の育成を図る。	(1)健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。	○保健教育を推進する。 ・健康的な食習慣の定着に向けた食育指導の継続的・計画的な実施（健康生活チャレンジウィーク等）	・健康生活チャレンジウィークにおける達成度（感謝・マナー）	90%	感謝 98.9% マナー 92.3%	感謝 100% マナー 100%	感謝 111% マナー 111%	A	・給食時間を利用して、動植物の命をいただくという感謝や、食物が食卓に並ぶまでに関わった人々への感謝の気持ちを育て、マナーを守って食事をすることについて話した。自分で食べられる量がわかり、完食できるようになった。もう少し食べてみようとする児童も増え、自信につながった。よい姿勢で食べることは、食事のマナーの基本であり、身に付けられるよう繰り返し、指導した。	・給食時間を利用しての保健指導の充実を図る。食にかかわる指導だけでなく、より健康生活向上のため、家庭の中でも話し合われ、家族で実践できるよう内容を取り入れていく。よい姿勢で食べることは、身についてきたが、時に崩れることもあり、繰り返し指導を行う。	4			・チャレンジウィーク中、意識して生活を見直すことができるのでこれからも継続して取り組んでほしい。 ・早寝・早起き・朝ご飯の習慣化を目指してほしい。 ・個人の体格、体力、性格の違いにより、スポーツをしても差ができるため、その児童にあった指導をし、個々の成長を見守ってほしい。
		(2)運動への意欲を育て、体力の向上を図る。	○体力つくりを推進する。 ・運動の楽しさを味わわせる体育科指導や日常活動の工夫（体育科授業導入での運動、児童会による「みんな遊び」等） ・「木原チャレンジタイム」の継続（マラソン等）	・児童アンケート肯定的評価の割合（運動への意欲）	90%	99%	100%	111%	A	・チャレンジタイムでは、児童が目標に向かって前向きに取り組む姿が見られた。休憩時間の「みんな　遊び」の実施によって、集団で行う運動の楽しさや、体を動かすことへの親しみをもたせることができた。投擲力に関わる道具を準備し、休憩時間に使用できるようにしたことによって、多くの児童が「投げる」運動を積極的に行うようになった。一方で、児童によって運動に対する取組に温度差がある。	・体育科の授業に、柔軟運動や筋力トレーニング、サーキットをルーチンとして取り入れ、体力や筋力の向上に努める。児童が運動に主体的に取り組めるよう体育館や運動場の環境整備並びに用具や遊具の充実を図る。 ・児童主体の「みんな遊び」に積極的に参加し、取り組むことができるようにゲームの種類を増やすなどの工夫や改善を行う。また日常的に運動に親しみをもたせる取組を継続することにより児童間の運動に対する温度差を縮小させる。	4			
信頼される学校の形成	安心と信頼のある学校を創る。	(1)コミュニティ・スクールを推進し、地域と学校の連携・協働体制を構築する。	○「ふるさと学習」を充実させる。 ・生活科、総合的な学習の時間、ふれあい活動（とんど祭り、ふれあいコンサート）、学校文化（木原太鼓踊り）等の充実 ○地域と協働した活動を創造・推進する。 ・クラブ活動の充実、学校行事（創立150周年記念式典）の実施	・地域・保護者アンケート肯定的評価の割合（地域との連携・協働）	90%	93%	100%	111%	A	・生活科では冬野菜の植え付け、収穫を地域の方と共に作業をした。また、町探検を行い、地域に親しみをもつことができた。総合的な学習の時間には、150周年記念式典のために来場された地域の方々に向けて木原海岸の現状を伝えたり、地域の宝である大鯨島についてまとめたりすることで、ふるさと木原に対する愛着を深めることができた。 ・クラブ活動の時間に地域の方をゲストティーチャーに迎え、絵手紙を楽しむことができた。	・生活科や総合的な学習で学んだ内容を地域の方や地域以外の方にも発信をし、ふるさと木原の魅力を広げる活動を計画していく。 ・学校運営協議会での連携を密にし、地域と保護者、学校が一体となって地域と協働した活動の取組を進めていく。	4			・学校でたくさんの野菜を育てることにより食べることが楽しくなる。よい取組だと思う。 ・引き続き地域との連携を継続してほしい。 ・今迄以上に、報・連・相を活性化していきたい。
		(2)安心・安全な学校づくりを推進する。 （不祥事ゼロ）	○安心・安全に対する職員の意識や動きを強化する。 ・「木原小セーフティガード」を活用した振り返り ・不祥事防止研修の工夫 ○業務改善を推進する。 ・計画的な（見通しのある）業務遂行 ・校務の効率化（デジタル化、無駄の軽減）	・「木原小セーフティーガード」目標値（110%）達成職員の割合（7月・1月） ・保護者アンケート肯定的評価の割合（安心・安全）	100% 90%	100% 93%	87.5% 93%	95%	B	・毎月「木原小セーフティーガード」で自己の振り返りを行い、改善、向上が困難な項目については、管理職が面談を行ったり、声を掛け合ったりすることで、安心・安全への意識を高めることができた。 ・準衛生委員会を月に1回開催し、校務の効率化や各職員の仕事量の平準化、職員のメンタルヘルス等について討議を重ねた。	・今後も「木原小セーフティガード」を活用した自己点検、他者点検の視点を大切にしていく。また、、社会の状況を見つめる中で、不祥事防止研修が自分事となるような内容の工夫を行っていく。 ・校務の効率化を図るため校務分掌の中で、デジタル化を進め、紙類の資料の削減、保護者連絡等で積極的にICTを活用していく。	3		1	・特に職員のメンタルヘルスについては、十分な対話を心がけていく。 ・働き方改革で教師の方々は大変だと思う。地域でできることは、地域に任せてもらって構わない。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。